

【大会規定】

① 試合規則

- ・試合は、当該年度の公認野球規則、アマチュア野球内規、高校野球特別規則を適用する。

② 試合の開始

- ・その日の試合開催・中止については、大会本部が試合開始予定時刻の1時間30分前から協議して決定する。
- ・第2試合以降の開始予定時刻は、前試合終了時から通常30分後、散水する場合・コールドゲームの場合は40分後を目途とする。練習会場のない場合は、試合進行や天候等を考慮し、随時対応する。

③ 延長試合・タイブレーク

- ・延長試合については、12回まで延長戦を行う。12回終了時に同点の場合は、13回からタイブレークを適用する。（同一投手は15イニングまでしか投げられないので注意する）
- ・1年生大会では、選手の健康管理上、9回終了時に同点の場合は、10回からタイブレークを適用する。（同一投手は15イニングまでしか投げられないので注意する。）
- ・全ての大会において、決勝戦でもタイブレークを実施する。

④ コールドゲーム、**継続試合【新 R4 150回春から適用】**

- ・**得点差**によるコールドゲーム（5回以降10点差、7回以降7点差）を適用する。
- ・**降雨、日没等**の天候状態によるコールドゲームは適用せず、継続試合とする。
- ・**決勝戦**には得点差によるコールドゲームを適用しない。天候やその他の事情で勝敗が決しない場合は、翌日以降に**継続試合**を行う。

※**継続試合は、部員の健康維持・増進の推進策として、また、教育の一環としての高校野球において、勝敗が決するまで練習の成果を発揮できる場の確保のため、昨今の気象状況の変化に対応し安全な大会運営・プレー環境の整備のための対策として導入される。**

- ・**継続試合適用の決定権は大会本部が有し、本規定に準ずるとともに、状況を総合的に判断して決定する。**
- ・**継続試合の審判については原則として、同審判員とする。**
- ・**継続試合の球場については原則として、同球場で行う。**
- ・試合が**継続試合**になった場合は、その試合は原則として翌日に組み入れる。大会本部は選手の健康管理や大会運営等を考慮し、試合日程を変更することができる。

⑤ 中断、順延

- ・中断の時間は選手のコンディションを考慮して**2時間程度**を目途とし、原則**2時間を大きく上回る**中断は行わない。
- ・降雨による中断の場合は、中断から**30分毎に最大計2回協議**し、その後**グラウンド整備1時間程度**を目途に再開出来ない場合は、**継続試合**を適用する。ただし、天気予報や雨量、グラウンド整備に要する時間等、時期や球場等によって異なるため、継続試合の適用に関しては**総合的に判断して大会本部が決定する**。
- ・落雷・雷鳴（降雨なし）による中断の場合は、**中断から20分毎に最大計4回協議**し、その後のウォーミングアップの時間（40分程度）を含めて**中断から2時間程度後を目途**に再開できない場合は、**継続試合**を適用する。
- ・**降雨と雷鳴の併発の場合**は、降雨規定に準ずる。また、時間差で起こった場合（雷鳴で中断中に激しい降雨が来た場合等）は、最初の中断開始時間から累積する。整備の時間を含め、2時間程度後に試合再開が可能かを判断し、継続試合を適用する。
- ・雨やその他の事情で試合開始時刻が遅れ順延になった場合は、その試合は原則として翌日の第1試合に組み入れる。但し、大会本部は選手の健康管理や大会運営等を考慮し、試合日程を変更することができる。
- ・**試合開始予定時刻の3時間後**（試合開始予定が9時の場合は12時）を目途に開始できない場合は原則として順延とする。
- ・試合順序を変更する際は、当該校の事情等を慎重に考慮して決定する。また、学校側はこの決定

に従い、保護者・応援者等がトラブルを起こさないよう十分に配慮すること。

⑥ 責任教師、監督

- ・「責任教師」は校長、教頭、または教諭、常勤講師、臨時的任用講師で、校長が適任者として委嘱したもの。「監督」は校長が適任者として委嘱したもの。「副責任教師」は責任教師に準ずる。但し、責任教師に『大会参加者資格規定』を充たしたものが入っている場合に限り、**実習教師・実習助手**を副責任教師とし、大会(全国大会を除く)のベンチ入りも認める。副責任教師が複数いる場合、大会でのベンチ入りは「資格証明書」に登録したものに限り(試合毎の変更は不可)。大会期間中に変更する場合は、『責任教師・副責任教師・監督の変更について』(必携様式5)を大会本部に提出すること。非常勤講師・技術員・事務職員等はコーチ登録しかできない(*1)。コーチは学校職員・学校外部コーチ問わず、公式試合でのベンチ入りは認めない(*2)。

【注釈】

*1 非常勤講師で、2校に勤務している場合は、そのいずれかの加盟校で登録をし、その学校でのみコーチとして大会参加が可能。ただし、登録していない学校での部活動指導等(練習・練習試合への参加、練習試合での立審、保護者会懇親会等への参加)は一切してはならない。

*2 コーチは、ベンチ入りすることはできない。副責任教師になり得る資格を持つものは、コーチ登録ではなく、副責任教師として高野連登録すること(副責任教師は複数登録可)。

- ・出場校は、必ず責任教師が引率し、大会中の選手の健康管理及びすべての行動について責任を負う。大会本部が不相当と認めた場合、その試合を停止して相手チームに勝利を与える。
- ・監督の交代は認められないが、**責任教師のみ、やむをえない場合に限り変更を認める(責任教師変更届けを提出すること。大会期間中の1試合だけであったとしてもベンチに入れない場合は変更届けを提出すること)。**

⑦ ベンチ入りできる者

- ・ベンチの人数は、登録の責任教師1名・監督1名・副責任教師1名・登録選手20名・記録員1名(試合出場資格のない過年度卒も可)の計24名以内とする。
- ・**試合前及び試合中、登録選手以外(上記24名以外のコーチ・登録以外の部員・OB・保護者等)の、ベンチや選手控え室・カメラマン席への出入りを禁止する。**また、ベンチ周辺にも近づいてはならない。
- ・**チーム帯同のトレーナー**は、第1試合のみ、オーダー用紙交換の放送通告までベンチ内に入ることができる。2試合目以降のトレーナーのベンチ入りはできない。
コーチでシートノックを行う者は、第1試合のチームはオーダー交換後、第2試合以降のチームはベンチの入れ替え時から、シートノック終了までの時間のみベンチ入りを認める。

⑧ 指導者、記録員の服装

- ・**責任教師・副責任教師**は、帽子・ネクタイを着用すること。高野連スタッフシャツ(ベンチ入りは白のみ)・役員Vジャンも可。但し、試合前にノックをした責任教師・副責任教師のユニフォーム着用は認める(県内大会のみ)。
- ・**監督・補助ノッカー**は、登録選手と同じ試合用ユニフォーム、黒か白のスパイクまたはシューズを着用すること。
- ・**記録員**は、制服・トレーニングウェア・背番号のない試合用のユニフォームのいずれかとする。

⑨ 選手資格証明書

- ・選手資格証明書は、大会毎に様式・提出方法が異なるため、【大会特別規定】で確認すること。提出後の選手の登録変更期限も確認すること。

⑩ ベンチサイド

- ・ベンチサイドは、組合せ抽選番号の若いチームを1塁側とする。

⑪ 選手の服装

- ・**登録選手**は、球場内では背番号のついた試合用のユニフォーム、その他の部員は背番号のない試合用ユニフォームとする(「球場内」とは、選手入り口及び球場正面入り口から)。
- ・**第1試合のチーム**に限り、**チーム統一**Tシャツまたは練習用ユニフォームでのアップを認める。必ずベンチに入ってからTシャツ等に替えること。また、キャッチボールからは試合用ユニフォームを着用すること(キャッチボールからスパイク着用可)。
- ・**球場周辺・スタンド**においては、チーム統一のTシャツかユニフォームを着用すること。
- ・**Tシャツ**は**チームまたは学年**で統一してあること。また、**色は派手でないもの**とする。選手名や学校名以外の文字の入ったものは認めない。

- ・ **グラウンドコート**は、チーム統一のものであればベンチ内での着用を認める。また、投手が走者になった場合とブルペンでの投手、捕手の着用も認める。
 - ・ **ラバーコート**は、アンダーシャツと同色のものであればベンチ内での着用を認める。アンダーシャツの下であればこの限りではない。
- ⑫ **オーダー用紙提出**
- ・ **第1試合のチーム**は、試合開始予定時刻の1時間前には所定の球場に到着し、その旨を大会本部に報告してオーダー用紙を受け取ること。オーダー用紙は、試合開始予定時刻40分前（開会式が行われる場合は開会式前）に提出すること（同姓の場合のみ名前まで記入）。
 - ・ **第2試合以降のチーム**は、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、前試合の5回終了後に責任教師（副責任教師）または監督が提出すること。
 - ・ **継続試合のオーダー用紙提出・交換**は、確認のために行う。元の試合の停止された時の出場選手をオーダー用紙に記載する（代打の状態であれば「守備位置」には【H】を、代走であれば【R】を記入）。出場選手以外の登録選手は控え選手欄に記載し、停止された試合に既に出場した選手は、名前の上に二重線を引く。
- ⑬ **オーダー用紙交換**
- ・ **第1試合**については試合開始予定時刻30分前（開会式が行われる場合は開会式終了後）、**第2試合以降**については、前試合の7回終了後（コールドゲームの場合は試合終了後）に行う。
 - ・ 責任教師は、主将（投手の場合は副主将でも可）と試合補助員及び**テーピングや足首保護ガード**を着用する選手を引率してくること。また、**負傷で試合出場が不可能になった選手**（手足の骨折など）がいる場合は、大会本部がどの程度参加させるかを決定するので引率してくること。
 - ・ **継続試合**では、通常のオーダー用紙交換の時刻に、**審判員・大会本部・両校で継続時の状況確認等**を行う。責任教師は、主将（投手の場合は副主将でも可）と試合補助員及び**テーピングや足首保護ガード**を着用する選手を引率してくること。ただし、主将以外で、すでに交代し出場資格を持たない選手は招集しない。
- ⑭ **シートノック**
- ・ シートノックは、7分間を原則とするがグラウンド状態や試合進行、天候等により短縮または中止する場合もある（**継続試合も同様とする**）。
 - ・ シートノック中、選手はベンチ内で静かに待機すること。スタンドでの応援もしないこと。
 - ・ 補助ノッカー1名、男子ノック補助員**5名**を認める。
 - ・ 1塁後方、3塁後方からの外野ノックは、天然芝上からは行わないこと。
 - ・ ノック補助員は背番号のない試合用か練習用のユニフォーム、白または黒色のシューズを着用すること。Tシャツやグラウンドコートは不可。
 - ・ ノック補助員はブルペン捕手やノックを受けることはできない。但し、各塁ベース上（本塁を除く）に限り野手からの送球を捕球することはできる。
 - ・ ノック補助員とノックを受けない選手（特に内野ノック補助）は、危険防止のためヘルメットを着用すること。
- ⑮ **選手の健康管理**
- ・ 大会本部は、大会中の負傷、疾病に対し応急手当をする他は一切責任を負わない。医療機関を利用することも想定し、健康保険証（コピー可）を準備しておくこと。
 - ・ 学校医から健康証明書を受けた選手でも、大会に参加してから疾病、負傷、その他の健康上の理由で、大会本部がその選手の試合出場を不適当と認めた時は出場を禁止することがある。また、前記のような選手が多数になりチームの構成ができない場合は、その試合を停止して相手チームに勝利を与える。
 - ・ 法定伝染病に罹患した選手が出たチームについて、その他の健康な選手も罹患していないという医師の証明書がない限り、出場することはできない。
- ⑯ **選手の遅刻**
- ・ 何かの事情で当該選手だけが試合会場に遅れてきた場合、あくまで試合開始の挨拶で両チームが整列するまでに到着しなければ出場資格がないとし、その取り扱いを次の通りとする。
 - （1）出場選手は大会規定で定められた時刻までに球場に到着しなければならない。何かの理由で遅れてきた場合、大会本部がやむを得ないと認めた理由がない限り、試合開始の挨拶で両チームが整列するまでに到着しなければ試合に出場することができない。ただし、試合出場が認められない選手であってもベンチに入ることは許される。

- (2) 資格試験・検定試験等で遅れる場合は、あらかじめその旨を事務局に連絡しておくこと。
- (3) 個人・チームが遅れそうになる時には、責任教師は本部に報告する。大会本部は内容を協議し、出場できるかどうかを決定する。
- (4) 遅れてきた選手がベンチに入る際は、大会本部、審判員に申し出ること。

⑰ その他

- ・選手が9名未満のチームで、高野連に未登録の選手を補充して参加する場合は、大会初日までに一時的な部員登録を所定の様式でおこなうこと。(必携参照、学校長印が必要)
- ・選手が9名のチームは、守備時のタイムの際、主将をベンチに呼ぶことができる。(タイム回数にカウントする)
- ・野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟が定めた「高校野球用具の使用制限」に適合したものを使用する。
- ・宿泊するチームは、大会本部(試合当日の責任者)に宿舎名を連絡すること。
- ・その他の事項については、高校野球関係者必携の「大会運営上の留意事項」、「球場使用上の注意事項」、「応援についての注意事項」、「大会運営の任務」にて運営する。
- ・大会運営上必要な場合は、役員会で協議して決定する。

【大会特別規定】

① 新人野球地区大会 特別規定

1. 選手が12名以下のチームは、3年生部員を入れて13名までベンチ入りを認める。(3年生部員は、練習用のユニフォーム。控え捕手(攻守交代時の捕手も可)、バット引きはできるが、ランナーコーチ、伝令等はできない。)

責任教師は、オーダー用紙交換時にベンチ入りする3年生部員を伴って来ること。
2. 記録員がいないチームは、3年生部員を記録員としてベンチに入れることを認める。
3. 試合補助員は、3年生部員**練習用ユニフォーム**(トレーニングウェア可)とする。
4. 選手資格証明書は、当該校試合当日に持参し、**球場に到着後、すぐに**大会本部に提出すること。試合会場の移動がある場合は、大会本部から【検】の押印のある選手資格証明書を受領し、移動先の大会本部に提出すること。資格証明書提出後の選手の変更は認めない。
5. その日の最終試合は、前試合の終了が**16時**を超えたら実施しない。
6. 熱中症対策について、本部・各チームとも理解をし、運用すること(【確認事項】⑬参照)
7. 各地区パート優勝校(県北2、県央3、県南3)を秋季大会のシード校とし、シードポイント4点(ベスト8)を獲得する。

② 秋季九州大会県予選 特別規定

1. 選手が12名以下のチームは、3年生部員を入れて13名までベンチ入りを認める。(3年生部員は、練習用のユニフォーム。控え捕手(攻守交代時の捕手も可)、バット引きはできるが、ランナーコーチ、伝令等はできない。)

責任教師は、オーダー用紙交換時にベンチ入りする3年生部員を伴って来ること。
2. 記録員がいないチームは、3年生部員を記録員としてベンチに入れることを認める。
3. 試合補助員は、3年生部員は**練習用ユニフォーム**(トレーニングウェア、グラウンドコート可)とする。
4. シード校は、新人大会地区予選パート優勝の8校とする。抽選によって1～8までのシードを決定するが、シード校が大会に出場できない場合は、参加校による投票でシード校を選出する。
5. 選手資格証明書は、開会式当日に大会本部に1部提出すること。開会式が中止の場合及び開会式を行わない場合は、当該校試合当日に持参し、**球場に到着後、すぐに**大会本部に提出すること。試合会場の移動がある場合は、大会本部から【検】の押印のある選手資格証明書を受領し、移動先の大会本部に提出すること。資格証明書提出後の選手の変更は認めない。(開会式がある場合は、大会本部は提出された資格証明書を【検】の印鑑を証明書の中央に押印し、2部コピーを取る。全出場校の資格証明書が綴じてあるファイルを3冊作成し、各試合会場に常備する)
6. その日の最終試合は、前試合の終了が**15時(サマリンは15:30)**を超えたら実施しない。
7. 1日3試合実施する場合の、第1試合開始時間は**8:45**からとする(日没を考慮して)。

8. 令和元年度（第145回予選）から三位決定戦を実施する。獲得シードポイントは、優勝：15点、準優勝：12点、3位：9点、4位：7点、ベスト8：4点とする。

③ 1年生大会県大会・地区予選 特別規定

- 9回終了時に同点の場合は、10回からタイブレークを適用する。同一投手は15イニングまでしか投げられないので注意する。）
- 地区予選・県大会ともに、部員が9名に満たないチームにおいては、試合中の怪我等の防止の観点から、他の部活動生や野球経験者を大会期間中だけの一時的な部員追加登録はできない。
- 選手が12名以下のチームは、2年生部員を入れて13名までベンチ入りを認める。（2年生部員は、練習用のユニフォーム。控え捕手（攻守交代時の捕手も可）、バット引きはできるが、ランナーコーチ、伝令等はできない。）
- 地区予選に出場する場合は、「混成チーム」か「連合チーム」を編成して出場すること。
 - 「混成チーム」とは、1年生部員6名以上9名未満に2年生部員を加えて編成したチームである。ただし、1年生部員は常時6名が出場し、2年生部員は投手と捕手はできない。なお、県大会への出場はできない。
 - 「連合チーム」とは、1年生部員が8名以下の複数の学校で編成されたもので、**選手数は24名以下とする（8名×3校）**。県大会に出場できる。また、1年生部員の多い他校の1年生を登録して編成することも可能である。この場合、引率等については両校で責任を持つこと。なお、参加したチームが敗退した場合は、該当の1年生は自校のチームに登録でき、試合に参加することができる。
 - 「連合チーム」結成（抽選終了）後は、連合チームの組み替えは不可。その後チームの存続が怪我や退部等で困難になった場合は、2年生を入れて「連合混成チーム」として参加する。この場合、県大会への出場はできない。予選についても初戦だけの参加となり、勝利しても勝ち上がることはできない。
- 地区予選では、20名を超える1年生部員がいるチームについて、全員のベンチ入りを認め、**出場も認める**。その場合、全員背番号をつけておくこと。オーダー用紙にはその試合に出場する**全員**を記載すること。
- 県大会については、ベンチ入りメンバーの上限を24名とする（連合チーム8名×3校に合わせ）**。ベンチ入りメンバーは試合ごとに替えても可とする（資格証明書は「背番号」ではなく通し番号で記入。**その中の24名を試合ごとに変更することは可。オーダー用紙は「控え選手」の欄を分割して、24名記入することとする。**）その際、背番号については1～24番である必要はない。オーダー用紙に背番号を記入し、対戦校・審判・大会本部に分かるようにしておく。
- 連合チームの背番号については、統一した背番号を新調する必要はない。各校自チームの背番号を使用して構わないが、同一番号をつけた選手が複数ベンチに入らないよう連合チーム内で調整すること。21～24名ベンチ入りする連合チームについては、自校で背番号を作成するか、他校から貸借して、必ずベンチ入り選手が背番号を着用することとする。
- 県大会については、選手資格証明書は当該校試合当日に持参し、**球場に到着後、すぐに大会本部に1部提出すること**。試合会場の移動がある場合は、大会本部から【検】の押印のある選手資格証明書を受領し、移動先の大会本部に提出すること。
- 試合中のボール回しは、イニングの最初だけとする。
- その日の最終試合は、前試合の終了が**15時**を超えたら実施しない。
- 1日3試合実施する場合の、第1試合開始時間は**8：45**からとする（日没を考慮して）。
- 令和元年度から三位決定戦を実施する。

④ 春季九州大会県予選 特別規定

- 人事異動に伴う4月1日以降の責任教師・監督の取り扱い
 - 責任教師は、当該校の校長・教頭・教諭（再任用職員を含む）・常勤講師であること。
 - 監督は、赴任校に野球部があればベンチ入りは認められない。ただし、赴任先に野球部がなく（例えば、特別支援学校や県教委など）、前任校と赴任先の所属長の許可があれば、引き続きベンチ入りは認められる。
 - 責任教師・副責任教師の常勤講師の先生は、3月30日で契約が解除されるので、以後のベンチ入りはできない。但し、4月1日付けで引き続き同校で採用された場合、学校長の許可

- があれば4月2日より、ベンチ入りすることができる。(3月31日は不可)
- シード校は、前年の秋季九州地区大会県予選の上位4校とする。第1シードは優勝校、第2シードは準優勝校、**第3シードは3位(3位決定戦が実施されなかった場合は準決勝で優勝校と対戦した敗退校)**、**第4シードは4位(3位決定戦が実施されなかった場合は準決勝で準優勝校と対戦した敗退校)**とする。但し、シード校が出場できない場合(選抜大会出場等)は、参加校による投票で最多票を獲得したチームをシード校とする。(連合チームについては、各学校1票を有する)
 - 選手資格証明書は、当該校試合当日に持参し、**球場に到着後、すぐに大会本部に1部提出すること。学年は新学年で記入すること。**試合会場の移動がある場合は、大会本部から【検】の押印のある選手資格証明書を受領し、移動先の大会本部に提出すること。資格証明書提出後の選手の変更は認めない。
 - その日の最終試合は、前試合の終了が**16時**を超えたら実施しない。
 - 令和元年度(第146回予選)から**3位決定戦を実施する。獲得シードポイントは、優勝：15点、準優勝：12点、3位：9点、4位：7点、ベスト8：4点とする。**

⑤ 県選手権大会・地区予選 特別規定

- 選手資格証明書は、当該校試合当日に持参し、**球場に到着後、すぐに大会本部に1部提出すること。**試合会場の移動がある場合は、大会本部から【検】の押印のある選手資格証明書を受領し、移動先の大会本部に提出すること。資格証明書提出後の選手の変更は認めない。
県大会に出場した場合、再度メンバーを入れ替えることができる。資格証明書は新規で作成し、当該校試合当日に持参し、大会本部に1部提出すること(以下、予選と同様)。
- その日の最終試合は、前試合の終了が**16時**を超えたら実施しない。
- 令和元年度から**三位決定戦を実施する。獲得シードポイントは、優勝：15点、準優勝：12点、3位：9点、4位：7点、ベスト8：4点とする。**

⑥ 全国選手権宮崎大会 特別規定

- シード校は、新人大会、秋季・春季九州大会県予選、選抜大会出場、県選手権大会の総合得点の上位8校とする。但し、同点の場合は、規定に準ずる。
なお、各大会の得点は、**優勝：15点、準優勝：12点、3位：9点、4位：7点、ベスト8：4点、県選手権大会は初戦敗退：2点、2回戦から出場での敗退：2点、勝ち上がり7点、選抜大会出場：15点とする。**
- その日の最終試合は、前試合の終了が**16時**を超えたら実施しない。
- 試合の状況によっては、球場を移動して試合を継続することもある。
- 選手資格証明書は、校印・校医印の押印されたものを抽選会に3部持参、提出する(B4版。3部とも押印)。提出後の選手変更は、所定の用紙で行い、**開会式当日まで(103回はコロナへの配慮から「初戦まで」に変更)**に大会本部に3部提出すること。選手変更届提出後の選手の登録変更はできない。
- 熱中症対策について、本部・各チームとも理解をし、運用すること(【確認事項】⑬参照)

【確認事項】

① 第一試合のチーム

- 悪天候で試合開催が懸念される場合でも、第1試合のチームは、原則として試合会場に向かうこと。

② ブルペン使用

- 2試合目以降の先発投手のブルペン使用は、オーダー交換終了後から認める。但し、グラウンド内にあるブルペンの使用は認めない。

③ 試合補助員

- 登録選手以外から**3名**。
- 試合用ユニフォームか**チーム統一のTシャツ**(グラウンドコートは可)、白または黒色のシューズを着用すること(自校の補助員の場合は、試合用ユニフォームが望ましい)。
- 事前に、係分担を決めておくこと。人数不足のチームは、対戦校か当日試合のある学校に依頼し

ておくこと。

- ・スタンド係は、笛を持参すること（大会本部が、オーダー交換時に確認する）。

④ グランド整備

- ・第1試合のライン引きとグラウンド整備は対戦校同士で行う。
- ・第2試合以降のシートノック前の整備（サンマリンは1塁側がグラウンド整備、3塁側がシート張り）は、対戦校同士で行う。
- ・シートノック終了後の整備は、前試合の勝利チームが行う。整備には責任教師・副責任教師・監督が必ず付いて指導に当たること（整備は、背番号のついた選手が担当することが望ましい）。
- ・5回終了時の整備は、両チームの部長及び、ベンチ内の選手5名で行う（スタンドで応援している選手は不可）。
- ・延長に入ってから整備は行わないが、タイブレークに入る前には整備を行う。但し新人大会・全国選手権宮崎大会の熱中症対応時は、その限りではない。

⑤ 試合前練習

- ・大会毎に、使用する球場が異なるため、必ず各大会の「組み合わせ（トーナメント）表」の下段に表記されているアップ会場を確認すること。
- ・サンマリンでの試合前練習会場は、1塁側チームがひむか、3塁側チームが軟式Aとする。
- ・サンマリンとひむかが試合会場の場合は、サンマリンの試合チームは芝生広場、ひむかの試合チームは軟式Aとする。
- ・SOKKEN・アイビーは、1塁側チームは第2球場1塁側、3塁側チームは同球場3塁側とする。
- ・サンマリン第1試合のチームで、ひむか・軟式Aを9時以前から使用したい場合は、前日の午前中までに鍵の貸出希望時間を木花運動公園事務所（☎ 0985-58-5588）に連絡をすること。なお、ひむかの鍵の引き継ぎ・返却は、当該校同士で責任を持って確実に行う。グラウンド整備は、その都度行うこと。
- ・練習会場の使用は、試合前の練習のみとする。前泊するチームについては考慮する。
- ・サンマリンにおいては、第1試合のチームのみ球場内でのトスバッティングを認める。場所は外野ファウル域で、打者はアンツーカー内とする。
また、ベンチ前周辺の芝生内では、キャッチボール・素振りも禁止である。
- ・SOKKEN スタジアムにおいては、第1、第2球場ともアンツーカーからのハーフバッティングを認める（芝生の上ではトスバッティングも認めない）。

⑥ メガホン

- ・ベンチ内のメガホンは1個（通常の大きさの物）とし、監督のみ使用を認める。

⑦ 素振り

- ・試合中のグラウンド内での素振りは、素振り室のない球場についてのみ認める。場所は、外野寄りのベンチ前で、代打で出場する予定の選手1名に限る。

⑧ キャッチボール

- ・キャッチボールは、2組（ブルペン使用も含む）4人までとする（ゴロは不可）。

⑨ サングラス

- ・指導者・選手でサングラスを使用する場合は、その旨をオーダー交換時に申し出ること。（該当の選手は使用するサングラスを持参してくること）
- ・グラウンド整備（試合前後・5回終了後）の際の指導者・役員のサングラス使用も認めない。

⑩ 屋内練習場

- ・雨天時に屋内練習場を使用できるのは、当日試合が予定され、球場に到着しているチームに限る。時間は9時から17時まで。使用するチームが複数の場合は、大会本部が使用する時間を割り振る（使用する球場により異なる）。

⑪ 最終試合終了後のグラウンド整備・スタンド清掃

- ・その日の最終試合後は、両チームでそれぞれのベンチと選手出入口の清掃を行う。また、勝利したチームがグラウンド整備、敗戦したチームがスタンドと球場周辺のゴミ処理・清掃を行う。

⑫ ビデオ撮影

- ・試合中のビデオ撮影はバックネット裏のスタンドからのみとする（ベンチ内の監督のサインを撮影する行為等は禁止する）。
- ・指導者は、バックネット裏で観戦するか、球場内の部長・監督控え室を使用すること。

⑬ 熱中症対策

- ・ 1 イニングの攻撃で10点以上入った時点で、守備チームに給水タイムを設ける。その際、守備チームはベンチに下がり、給水を行う。
- ・ 野手から投手に交替する選手には、マウンドに上がる前の給水を認める（ファールグラウンドにて）。
- ・ 選手の治療による中断の際には、野手・走者・ランナーコーチはベンチに下がり、試合再開まで待機する（治療時間は10分程度とし、**責任者の判断**によるものとする）。その際、再開に備えてベンチ前でのキャッチボール等はチームの判断により認める。治療対象の選手をすぐに交替させる場合はこの限りではない。
- ・ 5回の整備（5分）は、休息・給水の観点から、試合に出ている9名を除くベンチ入りメンバーから出す。部員が9名の場合は、整備に出る必要はない。（対戦チームが人数にゆとりがある場合には5名以上出すなど、弾力的に行う。）天候条件等によるが、整備が完了しても、休息の時間として充分時間が取れていない場合は、本部の判断で6回表の開始を遅らせても構わない。
- ・ 延長戦（10回）・タイブレーク（13回）に入る前には、5回同様の整備・給水タイムを設ける。
- ・ ボールボーイ、ファールボーイは、水筒を持参し、適宜給水を行う。
- ・ 5回の整備、または中断の際には、ファールボーイは、ベンチ横（ボールボーイのスペース）に下がり、休息を取る。
- ・ スタンド補助員は、水筒を持参し、適宜給水を行う。また体調不良の場合はすぐに大会本部へ連絡し、補助員を交替するなどして対応すること。決して無理はしないこと。
- ・ 保護者の観戦のためのターフ、簡易テントの設置については、必ず責任教師が大会本部に許可を取ること（球場によって対応が異なる。**事務局または地区理事**は球場管理者に事前に確認しておくこと）。許可を受けた場合は、以下の点に十分留意し設置すること。
 - ・ 他の観客の視界を遮るような場所へ設置しないこと
 - ・ ファールボールへの対応ができないような死角を作らないこと
 - ・ 風にあおられ観客・選手に危害を及ぼしたり、試合の進行を妨げたりしないこと
 - ・ テントの色は、選手のプレーに影響しないような濃色（黒・紺・緑等）とする
- ・ 5回整備の際には、観客・スタンド補助員・応援生徒も一旦スタンドを離れ、木陰等で休息を取ることが望ましい。
- ・ 学校応援団が参加する場合は、**事前に熱中症対策について事務局に相談し**、万全にして望むこと（今後詳細検討。大会本部で対応できる対策は、球場・大会によって異なる）。

⑭ 継続試合におけるチケット払い戻しについて

- ・ 複数の試合が予定されている場合においても、第1試合7回終了後は、払い戻しを行わない。
- ・ 第1試合7回終了前に、継続試合になった場合においては、払い戻しに応じる。翌日に観戦可能な観客については、翌日も有効とする。チケットに印鑑を押すことで対応する。

⑮ その他

- ・ 学校職員が入場する際は、身分証明書を提示するか、職員である旨を係員に申し出て記名してもらうこと。
- ・ 運動公園事務所への試合の問い合わせは、職員業務に支障をきたすので控えること。
- ・ チームや個人の野球用具の管理は、各チームで責任をもって行うこと。盗難防止のため、選手通用口付近に置かず、ベンチ裏の通路に置くこと。